

広報

やまと

1 月号
2011 No.213

元気です！大和村 （豪雨災害を乗り越えて）



もくじ

- 02-03 新年のごあいさつ
- 04-11 ニュース：新年初泳ぎ、ほか
- 12-13 お知らせ：災害義援金報告、ほか
- 14-16 連載：いきむんマンディ、ほか

村水泳連盟による新年初泳ぎ（平成23年1月2日・国直海岸）

謹賀新年



豪雨災害を乗り越え新たな気持ちで迎える平成二十三年

新年あけまして

おめでとうございます

大和村長 伊集院 幼

村民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

村民の皆様におかれましては、輝かしい平成23年の新春をご家族おそろいで迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、本村は昨年10月に奄美地方を襲ったこれまでに経験したことのない集中豪雨により、崖崩れによる道路の寸断や集落への土石流の流入、冠水等各所で甚大な被害を受けました。幸いにも人的な被害はありませんでしたが、4集落において多くの村民の方々が避難所生活を余儀なくされました。被災された皆様方には心からお見舞いを申し上げます。

これまで被災地区の危険除去等緊急を要する集落周辺を中心に対策を進めてきましたが、これからは道路や河川など公共施設の復旧と共に、広範囲に埋塞した農地の復旧など村経済に直結する産業面の復興、振興策に全力で取り組むこととしています。

また、今回の災害に対し、全国各地各方面から非常に多くの心温まる義援金や激励等物心両面に渡るご支援をいただき、被災者の皆様も復旧に向けて元気づけられ、日常の生活を早期に取り戻すことが出来たのではないかと思っております。

ご支援下さいました多くの皆様方に対し、改めて心から感謝を申し上げます。

村としましても、今回の災害を大きな教訓として、村民の皆様方の安心・安全の確保に取り組んで参りたいと考えております。

平成23年が、災害・事故等の無い平和で明るい年でありますように願っております。

私は、村長に就任して以来、村政を預かる責任者として「行政は村民の立場に立つて村興しに取り組まなければならない」との基本理念の元に、村政運営を進めて参りましたが、本年も引き続きそのような基本理念の元に村政に取り組んで参りたいと考えております。

それでは、年頭に当たり、村政の主な施策について申し上げます。

1点目は、行財政改革の推進による健全財政の確立であります。

村興しの原点は、村民であります。その意味において、事業の効果や必要性など十分な検討を行った上で、適正な予算執行で健全財政の確立に努めて参ります。

また、職員の意識改革を図り、村民サービスの向上に努めて参りたいと思っております。

次に「農林水産業の振興による村の活性化対策」であります。

これからの大和村の産業は、農林水産業であります。振興策の一つに、村の特産品であるスモモやタンカンなどの村外への販路拡大が挙げられます。



ムリシュ（盛塩）とヒムン（干物）



高膳の盃と焼酎

朝三献（アササンゴン）

奄美大島の正月は家族全員が正装で床の間に正座し、厳粛な雰囲気の中での朝三献から始る。初めにムチヌスィームン（餅の吸い物）、次にサシミ、ウワーヌスィームン（豚の吸い物）の順番で食す。餅の吸い物には餅、椎茸、昆布、魚、卵が入る。刺身はアカマツ（ハマダイ）などの白身魚が二切れほど。豚の吸い物は塩豚の他、猪や鶏も代用される。食事が済むと、上座についた主人が家族ひとりひとりに「今年も健康で頑張るように」と言葉をかけながら高膳の盃に酒を差し出す。飲み干すとコンブとスルメ（もしくはシイラ）の干物に絡めた干物を両手で授かり一連の儀式は終了する。うやうやしくも身の引き締まる古き良き風習だ。



豚の吸い物（左）と刺身（中央）と餅の吸い物（右）

私は、これまでも、村のトップセー
ルスマンとして、村外への特産品のP
R活動を積極的に行って参りましたが、
引き続き全力で推進していきたいと考
えております。

また、特産品を活用した加工品につ
いては、新たな加工施設を拠点として、
開発や商品化を進め、販路の拡大を図
ることで、農家の皆さんの生産意欲の
向上と所得の向上に繋がっていきけるよ
うに取り組んでいきたいと思えます。

本村の基幹作物であるスモモとタン
カンにつきましては、昨年の豪雨災害
時に樹園地への土砂の流入等により樹
勢が低下しているため、その回復が懸
念されておりますが、この対策につぎ
ましても農家の皆様方とも連携を取っ
て進めていきたいと考えております。

さらに、生産者である農家の皆さん
の収入源の確保に少しでも貢献するた
め、昨年度から農作物を名瀬中央青果
市場への集荷・出荷事業に取り組んで
おりますが、今年度も引き続き実施し、
地産地消を積極的に推進して参りたい
と考えておりますので、多くの生産者
の皆様がこの事業をご利用されますよ
うご協力よろしくお願いいたします。

次に「子育て支援及び教育環境の整
備」であります。

少子化対策及び教育の充実は過疎化
対策とともに、村の活性化を図る上で
重要、かつ緊急の課題であります。出
産祝金や乳幼児から中学校までの医療
費の無料化を引き続き行おうと共に高校

生通学バス助成金の全額助成や里親助
成金制度を継続して行い、保護者の負
担を軽減します。

また、高齢者対策におきましては、「村
民が皆元気」をモットーに、雇用創出
などにも取り組んで参りたいと思いま
す。

今年4月から村内の中学校がひとつ
に統合されますが、奄美では初めての
取り組みであり、子どもたちが安心し
て教育が受けられる環境の充実を図っ
て参りたいと考えております。

以上、申し上げます他に、重点項
目として「定住促進・雇用対策の推進
による村の活性化」、「道路交通網、情
報通信体系、生活環境の整備」、「生き
生き安心安全な村づくり」等でありま
す。

そして、先人が残した多くの宝物「豊
かな自然や伝統文化」を継承し、後世
に残していくための施策を講じて参り
ますと共に、大和村の基本理念である
「自然と共生し、生き生き、安心、安全
な住みよい村づくり」を実現するため
に努力して参ります。

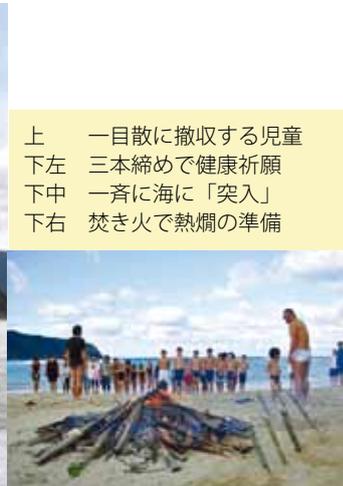
以上のこと等に、全職員一丸となっ
て、全力を尽くして参る所存でござい
ますので、村民協働の精神で村民の皆
様のご支援、ご協力を賜りますよう心
からお願ひ申しあげます。

新春にあたり、村民の皆様方の限り
ないご多幸と、益々のご健勝をお祈り
申し上げます、新年のごあいさつと
いたします。

新年初泳ぎで 元気全開!

大和村水泳連盟（伊集院幼会長）主催による新春恒例の初泳ぎが1月2日早朝、国直海岸で行われた。

季節風の影響から冬場は波が高い国直海岸だが、この日は沖合に白波が立つものの比較的穏やかな天候に恵まれ、村内外から5歳〜52歳の40名が参加。参加者たちは気合いを込めて元気に冬の海に飛び込んでいった。



上 一目散に撤収する児童
下左 三本締めで健康祈願
下中 一斉に海に「突入」
下右 焚き火で熱燗の準備

入水に先立ち伊集院会長が新年のあいさつを述べ「寒風が吹く中ですが冷たい海に入ることです身を清め、一年を健康ですごせるよう元気に泳ぎましょう」と凍える参加者を激励した。

参加者は入念な準備運動や砂浜でのランニングで体を温めた後、開始の合図とともに一斉に水しぶきを上げながら海の中に「突入」していった。

入水時は海水の冷たさに悲鳴を上げ奇声を発していたものの、海水は気温よりも2・3度高く、すぐに慣れた様子で泳ぎ始めた。

波打ち際ではしゃぐ低学年を横目に大人や高学年の生徒達は力強く沖へ向かって遠泳を開始。

海岸から50メートル程の沖合に達すると全員で円陣を組み、立ち泳ぎで姿勢を保ちながら三本締めで一年の無病息災を祈願。海岸で見守る保護者達からも歓声が上がった。

連盟事務局長の蔵正さん（47歳）によると「初泳ぎは30年以上続く恒例行事。海水は冷たく辛いですが、初泳ぎで新年のお祝いをしないと正月を迎えた気がしない」と語った。

終了後は焚き火の周りで暖を取りながら、子ども達は温かいぜんざいに、大人達は熱燗の日本酒に舌鼓を打ったとのこと。

海水の適度な刺激で身を清めた参加者は元気全開での新年のスタートとなった。



奄美ば 元気にする バイ!

福岡市を拠点に活動するNPO法人「九州プロレス」(筑前りょうた理事長)による奄美豪雨災害チャリティープロレスが1月15日村体育館で開催された。

大会は「豪雨災害で甚大な被害を受けた島民を明るく元気なプロレスで励まそう」と学生時代プロレス研究部に所属していた富川由美さん(奄美市)が企画。地元青年団を中心に実行委員会を立ち上げ準備を進め、広報からリングの設営までボランティアによる手作りの運営で開催にこぎ着けた。

試合に先立ち村民による島唄や、ジャンベ、ものまね、素人プロレス等の「前座」でイベントを盛り上げた。

試合は、九州の若大将〜筑前りょうた選手、Ωの頭脳〜旭志織選手、〜バリカラ〜めんたい☆キッド選手、〜躍動する巨大カルデラ〜阿蘇山選手の4名の選手が登場。シングルマッチ2試合、タッグマッチ1試合、計3試合が行われた。

火山に見立てたマスクの頭部から煙を吹き出しながら現れた阿蘇山選手に大歓声が沸き上がったほか、バックドロップやブレンバスターなどの投げ技、ドロップキック等の跳び技、トッピーから宙を舞うムーンサルトプレス等の初めて目にする大技に観客も興奮の様子だった。

上 大声援で応援するちびっこ達
中左 迫力の大技ブレンバスター
中右 噴火しながら入場する阿蘇山選手
下 「元気にスランパー」の大合唱



場外乱闘や椅子を使った凶器攻撃など白熱したファイトに子ども達も「りょうたガンバレー!」、「めんたいガンバレー!」必死に声援を送った。

試合終了後は互いの健闘をたたえ合いリング上で固い握手を交わした。

筑前りょうた選手によるマイクパフォーマンスでは、「苦しい時や悔しい時、辛い時もある!そんな時こそ元気を出して頑張らにゃいけん!奄美の皆さん元気になってください!」と被災者を励ました。

最後は総立ちの観客と一緒に「元気にスランパー!」、「スランパー!」と何度も合唱してイベントを終えた。

レスラー達に元気をもらった一日だった。・・バイ!



「将来は村の役に立つ仕事を。」

二十歳の記念日 (成人式)

新成人者氏名 (保護者氏名)

大和校区

- ⑤ 重信さやか (重信安男)
- ⑦ 向井惇 (向井章)
- ⑧ 森孝之助 (森満彦)
- ⑨ 郁島拓海 (郁島武正)
- ③ 森和健 (森和富洋)
- ⑧ 畑島健志郎 (畑島孝子)
- ⑨ 森義民 (森広子)
- 宮祐樹 (宮キヨ工)
- 嘉納琴美 (嘉納博和)
- 下園駿太郎 (下園和靖)
- 伊集院開 (伊集院正)
- 棚瀬望 (棚瀬玲子)

戸田校区

- ⑥ 三島貴弘 (三島るみ子)
- ⑦ 中村直樹 (中村美加枝)
- 山口理恵 (山口峰男)

名音校区

- ① 上村拓三 (上村高矢)
- ② 川畑秀平 (川畑秀継)
- 勇和樹 (勇行治)

今里校区

- ⑥ 東江優 (東江美千代)
- ④ 森拓真 (森博久)
- ⑤ 宮田一吹 (宮田清子)
- 森山真琴 (森山徹幸)
- 山田光世 (山田進次)

大和校区

- ① 藤村雄樹 (藤村俊文)
- ② 時善郎 (時善富)
- ③ 藏満司夢 (藏満逸司)
- ④ 今井汐里 (今井秀一郎)
- 窪山真希 (窪山喜久代)
- 森佑貴 (森輝男)

- ①は前列右から
- ①は後列右から



1月4日、大和村中央公民館講堂にて平成23年二十歳の記念日(成人式)が開催され、成人を迎えた18名が参加した(対象は29名)。

式典では浜川昇さんと島唄教室の受講生がオープニングを努め、祝唄で新成人を祝福。永田教育長が「21世紀は国際化の時代です。広い視野を持って世界へ羽ばたいて下さい」と式辞を述べた。

続いて伊集院幼大和村長や今井秀樹村議会議長、森亮大和村連合青年団長ら3名が祝辞を述べ、森亮団長は青年大会バレーボールの部で全国大会へ出場した経験談を交えて青年団活動を紹介。「青年団活動を通じて地域興しに協力してほしい」と活動への参加を呼びかけた。

新成人者は全員が自己紹介を行い、「責任ある成人者として自覚のある行動をしたい」、「これまでお世話になった家族に恩返しをしたい」、「将来は大和村に帰郷し村の役に立つ仕事に就きたい」等と抱負を述べた。

最後には新成人者を代表して森拓真さん(今里校)が「自分を育ててくれた家族と郷土に感謝し、社会に貢献したい」謝辞を述べた。

式典中は緊張に顔を強ばらせていた新成人者だが、記念写真撮影では終始リラックスムード。華やかな振り袖姿や大島紬姿でポーズを決め、素敵な笑顔に会場は華やいだ雰囲気包まれた。

「無火災・無災害の一年に。」

大和村消防団 消防出初め式



1月4日大和中小学校グラウンドにおいて、一年の無火災・無災害と団員の士気高揚を祈念して消防出初め式が開催された。

式は5分団、50名の消防団員による行進に始まり、村長による観閲式を行った他、小型ポンプによる一斉放水を披露した。団員の機敏な動きでホースが延長され、グラウンドに5本の放水アーチが架かると観客から大きな歓声があった。

昨年10月の豪雨災害時においては、いち早く現場に駆けつけ村民の生命と財産を災害から守った消防団。これからも地域防災力を高め、火災や災害のない一年にしてほしい。

なお、表彰や叙勲を受けられたのは次の方々（敬称略）。

県消防協会表彰精績章

満淳一郎（名音・40歳）

10年勤続知事表彰勤続章

森博久（今里・48歳）

森博之（思勝・41歳）

坂元昇二（戸円・47歳）

県消防協会支部長表彰功績章

元山満雄（大金久・47歳）

森博久（今里・48歳）

森博之（思勝・41歳）

県消防協会支部長表彰15年勤続章

梅田健二（名音・39歳）

叙勲 消防功労瑞宝单光章

内山豊秀（大柵・75歳）



復興



収穫始まる

オ

レンジとポンカンの交配種で奄美果樹のエースといわれるタンカンが収穫期を迎えている。今年は豪雨災害の影響やヒヨドリ食害の影響から出荷量の減少が懸念されるが、糖度は冬場の冷え込みにより例年よりも高く上々の出来だという。豪雨災害を乗り越え、力強く実った「復興タンカン」を求め福元地区の果樹園を訪ねた。

福元地区は奄美大島の中央に位置する丘陵地で、標高が高く適度に寒が入ることから、タンカン栽培の適地として知られる。近年は村外からの入植者も多く、日本一のタンカン産地奄美大島にあつて最も注目されている場所だ。大棚の藤村秀久さん（47歳）はこれまでタンカン品評会で入選した経験を持つ若手農家で、15年前に福元地区にタンカン畑を開いた。

実の着色具合や、酸切れの状況を見極めながら今年は2月7日から収穫を開始。この日は家族5人で収穫作業を行い、コンテナ50箱、1トンのタンカンを収穫した。

福元地区においては豪雨災害の影響が少なく、甘いタンカンが実ったという。ただし、生理落花が多く、全体的に小玉傾向にあるため収穫量は減産を見込んでいるとのこと。

お母さんのクニ子さん（78歳）がカットしてくれた実を頂くと、甘酸っぱい果汁が口いっぱい広がる。

やはり日本一の復興タンカンだ。



旬の冬野菜

むっさり

むっちもくれフェスタにぎわう

村の地場産野菜から古着まで幅広い商品をフリーマーケット形式で販売する「むっちもくれフェスタ」(同実行委員会主催)が12月19日に村中央公民館で開催された。

同フェスタは国直の重照代さん(64歳)を中心に実行委員が「市場で村を元気にしよう」と企画。

10月の豪雨災害の影響で開催が延期されていたが、今回は6月に続き二度目の開催となった。

商品は新鮮な冬野菜を中心に、花き類、フルーツ加工品、食料品、衣料品など豊富な品揃え。特に村の特産スモモを天日干しにしたドライフルーツは前回に続き一番人気。ブースは多くの



客でにぎわい、あつという間に完売した。

また、国直の子ども達が育てたサツマイモを使用して作った「国直なんだーぎー」(黒糖ドーナツ)も好評で、「もっちりして甘い」と好評だった。

重さんによると、今回はタンカンの収穫に併せて2月27日に開催予定なので多くの人に来てほしいとのこと。

市場の名前となった「むっちもくれ」とは「持つて行きなさい」の意味と「持つて来なさい」の意味をあわせ持つ方言だ。

市場で商品を購入するのはもちろん、お店を出店してフェスタに参加してみてもいいかだろうか。きっと、客も店主も元気になるはず。

福元どーこね

大人気!

ひらとみ朝市で正月準備

ひらとみ朝市(同実行委員会主催)が12月28日、思勝港緑地広場で開催され、早朝から正月飾りや正月用の食材を求める人々にぎわった。

同朝市は地産地消を進める農家グループによって20年程前に発足。当初はひらとみ神社前で不定期に開催していたが、現在は思勝港内にて年一回、12月28日に開催される年末の恒例行事となった。

しめ縄や門松といった正月飾りの他、ヤマイモや大根等の農産物、新鮮な魚介類が多数並び、特に奥山徳次さん(72歳)の出品した福元名産「福元どーこね(大根)」は大人気で、一人10本単位で購入する客も少なくなかった。

当日は実行委員会によって餅つきが行われ、会場には餅米を蒸す香ばしい



香りと、餅をつく威勢のいい掛け声が響いた。

テントではつきたての餅やぜんざいが無料で振る舞われ、早朝から訪れた人達は温かい食べ物にホッと一息ついていた。

実行委員長の森稲通さん(71歳)によると、「今年は天候に恵まれて何よりです。村内には災害に被災した農家もおり復興の途中だが、こうした催しで景気づけをして新年を迎えて貰えば」と語った。



ラジオが村にやって来た

NHKラジオ第一の情報番組「ここはふるさと旅するラジオ」の公開生放送が1月14日、村中央公民館前で行われた。

番組はラジオイベントカー「80ちゃん号」で全国を巡り各地の話題を紹介する内容。今回は11日から14日まで奄美大島の災害復興の様子を中心に放送を行い大和村が最終日。

会場には大和保育所の園児や大和小中学校の児童生徒をはじめ多くの住民が参集した（園児達は放送よりNHKキャラクターのドーモくんとななみちゃんが気になる様子）。



東京アナウンス部の永井伸一アナと鹿児島放送局の高木優吾アナ（全国放送初出場とのこと）の絶妙な掛け合いに会場は盛り上がり、村の市場「むっちもくれフェスタ」の実行委員がステージ上に登場すると、中にはハト（指笛）を吹いて声援を送る観客も。重昭代会長（64歳）を筆頭に、実はテレビ向きという郁島和代さん（48歳）、Iターンで戸円に住む馬屋原一さん（60歳）、様々なスポーツイベントの企画に携わる和泉和香さん（33歳）が次々に登壇し、グループの活動を紹介。大和村の「やる気・元気・本気」を全国に発信した。

休校の学舎がギャラリーに

休校中の戸円小中学校の教室をアートリエ兼ギャラリーとして活用。絵画や書、木工細工などの芸術作品を多数展示している。

ギャラリーの名前は「漁樵庵」。開いたのは富山県出身で昨年大和村に転入した和田喜美二さん（63歳）だ。

奥さんのカヨ子さん（62歳）と共に戸円海岸近くにカレーショップ「ウエスターナーズカフェ」を経営しており、スパイスの利いたカレーと芳醇な香りが特徴のコーヒーはファンが多く店は村内外からの客でにぎわう。

ユニークなキャラクターとテンガロンハットが印象的で、ご存じの方も多いことだろう。店内も多くの「作品」で埋まるが、本格的な創作活動を求めて村へ戸円校の利用を打診。村からも全面的な協力を得てオープンへ至った。

和田さんは独学で油絵を学び公募展で数々の賞を受賞。各地で個展を開いてきた。ギャラリーには絵画の他に漢書やフライフィッシュ、チェンソーアート等様々な芸術品が並び、和田さんの多彩な才能が垣間見える。和田さんは「ギャラリーは年中無休なので気軽に立ち寄ってほしい」と話す。

もちろんその際は、カヨ子さん特製のカレーとコーヒーもお試しあれ。



カフェ特製「季節の野菜カレー」

村長と一緒に「いただきます」

鹿 児島県では「鹿児島をまるごと」と味わう学校給食」をテーマ

に、1月24日（月）から28日（金）を学校給食週間と定め、全ての食材を県内産でそろえる取り組みを行っている。村内においても、伊集院村長が村内全ての学校を訪問し給食の様子を視察。子ども達と共に給食を味わった。

1月20日はキャンペーンに先駆けて大和中学校2年生のクラスを訪問。

「みなさんと給食を食べるのを楽しみに来ました。生産者や調理をしてくれた人たちに感謝の気持ちを持って、美味しくいただきますよ」とあいさつ。全員で手を合わせ「いただきます」とあいさつをして村長との給食を楽しんだ。



交流の一環として設けられた質問タイムには「村長さんが小学生の時はどんな給食でしたか？」や「村長さんの給食はおいしかったですか？」などの質問があり終始和やかに食事。食事の最後には生徒を代表して福島まもる君が「いつも美味しい給食を提供してくれてありがとうございます。これからも感謝の心を忘れずに給食を食べます。」とお礼の言葉で食事を終了した。

鮮やかに・生き生きと

奄 美自然体験活動推進協議会が主催する第11回やせいのいきもの絵画展の表彰式が12月11日奄美野

生生物保護センターにて行われた。同絵画展は奄美の子ども達に島の自然や生きものについて自分自身で見

て、感じて、知り、考えることをしてほしいとの趣旨から広く募集。今年のテーマ「奄美の生きもののおもしろいしぐさ」にそった力作、219点の応募があった。

大和小4年の高島洋くんは「えものをねらうキノボリトカゲ」と題し、トカゲの姿を生き生きと描写。3度目の入賞を果たした。

入選者には副賞として入賞作品12枚で構成された2011年カレンダーがプレゼントされ、誇らしげにカレンダーを見つめていた。入選者は次のとおり（敬称略）。



あざやか賞

- 美野真輝（大和小学校3年）
- 蔵野々夏（大和小湯湾釜分校2年）
- 瀨崎大輝（大和小学校6年）
- 山田泰生（秋名小学校5年）

ユニーク賞

- 政村紫音（大和小学校3年）
- 中島育斗（岡前小学校1年）
- 椎原貫介（大和小学校4年）
- 高島 洋（大和小学校4年）

審査員特別賞

- 山下竜輝（今里小学校2年）
- 十倉弘丞（古仁屋小学校2年）

いきもの大賞

- 山本海帆（伊津部小学校2年）
- 栄 辰幸（宇宿小学校4年）



災害の恐怖未だ消えず

大規模な土石流により大和浜集落に甚大な被害を及ぼした滝ノ川。岩肌を流れ落ちる清流は災害前と同じように優しい水音を奏でる。しかし溪流沿いの自然観察道は無惨に崩れ、工事用の大型土のうが積まれた風景は災害の記憶を呼び戻す。

現場近くに住み自宅が半壊した盛八重さん（77歳）は未だに家に帰れずにいる。雨が降るとあの日の恐怖がよみがえり恐ろしいという。一日も早く災害現場が復旧し、被災者の心の傷が癒えることを願わずにはいられない。

ご支援ありがとうございました。

10月20日の豪雨災害被災者のための義援金を募集したところ、村内外から多数の励ましのお言葉と支援物資や義援金をいただきました。心からお礼を申し上げます。前回広報誌掲載以降にご寄付をいただいた方のご芳名を掲載いたします。

ご芳名（敬称略）	ご住所	ご芳名（敬称略）	ご住所
北海道キリスト教学園光の園幼稚園	北海道	今田 実夫	兵庫県
松田 幸枝	北海道	寺西 千和子	兵庫県
岡本 孝二	石川県	川西市立北陵小学校児童会	兵庫県
大野 道夫	石川県	奥枝 富江・政子	兵庫県
東京九段ライオンズクラブ	東京都	柳瀬 良雄	兵庫県
サークルK三鷹新川団地店	東京都	露光 納子	徳島県
松崎 博文	東京都	NPO法人九州プロレス	福岡県
川崎向ヶ丘郵便局一同	神奈川県	神水協会学校	熊本県
清水 敏子	千葉県	仁 富和嘉	沖縄県
高橋 良	埼玉県	壽福 和義	鹿児島県
ライオンズクラブ国際協会	埼玉県	畠中 徳雄	鹿児島県
江原 信昭	埼玉県	鹿児島県コンクリート工業組合青年部有志一同	鹿児島県
佐藤 節子	埼玉県	湧水町長 米満 重満	湧水町
小林 理穂	静岡県	山下 義之	肝属町
(社) 中日新聞社会事業団	愛知県	面縄中学校	伊仙町
野々山 均	愛知県	(株) 奄美ガス代表肥後政幸	奄美市
森田 和代	愛知県	名瀬ライオンズクラブ	奄美市
カフェMATERIAL糸本元美	大阪府	稲澤 裕子	奄美市
関西大和大棚校区会	大阪府	村田 徳子	奄美市
近藤 明義	京都府	名音集落区長 勝三千也	大和村

新たに民生委員・児童委員に委嘱された方々



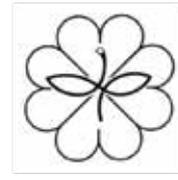
郁島和代 (津名久)



永野伊豆子 (湯湾釜)



晨原政代 (国直)



氏名 (担当地区)



喜島スガ子 (大金久)



川下八重子 (大畑)



浜崎通子 (大和浜)



永野豊美 (思勝)



池田浩二 (主任児童委員)



森忠夫 (志戸勤・今里)



勝島常雄 (名音)



勝裕子 (戸円)

民生委員・児童委員は厚生労働大臣に委嘱されたボランティアとして地域に配置されています。現在、大和村では11名の民生委員・児童委員と主任児童委員がおり、それぞれの地域で活動を続けています。生活に困っている人や、高齢者、障がいのある人、児童、母子などの相談に応じたり助言をしています。

ご相談は民生委員・児童委員へ

子どもたちの学力の現状について

平成22年度全国学力・学習状況調査結果

文部科学省が小学校6年生、中学校3年生を対象として実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を公表いたします。本村のすべての小・中学校が小規模校のため、具体的な数値や学校ごとの結果の公表はせず、(記号(☆)と矢印(↑)の県の平均との比較)で表示していますので、ご理解ください。

調査日 平成22年4月20日(火)

調査対象学年 小学校6年生・中学校3年生

調査対象教科 国語、算数(小学校) 国語、数学(中学校)

A:「知識」に関する問題 B:「活用」に関する問題

本年度の全国学力・学習状況調査は抽出による調査となりましたが、鹿児島県ではすべての小・中学校で実施しました。抽出調査になったことにより、全国及び県の平均正答率は、誤差を含めた数値の幅(平均正答率の95%信頼区間)で示してあります。

小学校では、算数A、Bとも全国の正答率を上回っていますが、国語Aは全国と同程度、国語Bについては、全国の正答率よりやや低い傾向にあります。中学校では、全科で全国の正答率を上回っており、中学校の学力は全国より高く、確かな学力を身につけています。しかし、B問題(活用に関する問題)での正答率が70%未満であり、活用力を高めるための取組が必要です。

各学校では、この調査結果を分析し、課題等を把握・検証し、その改善を図り、児童生徒一人一人の学習状況の改善や学習意欲の向上等につなげるよう取り組んでいます。

ご家庭においても、家庭学習の習慣化や生活習慣の改善などできることから取り組んでいただき、学校と家庭の連携のもと、子どもたちに「確かな学力」を育む支援をしていきたいと思います。

大和村教育委員会

〔各教科の正解率(%) 平成22年4月20日実施〕

教科	小学校6年生			中学3年生		
	全国	県	大和村	全国	県	大和村
国語 A	83.2~83.5%	83.7~85.1%	☆☆☆→	75.0~75.2%	73.7~74.7%	☆☆↑
国語 B	77.7~78.0%	76.8~78.8%	★↓	65.1~65.5%	63.6~65.1%	★↑
算数A(数学A)	74.0~74.4%	72.7~74.5%	☆☆↑	64.4~64.8%	61.7~63.6%	☆☆↑
算数B(数学B)	49.1~49.5%	45.9~47.9%	★↑	43.1~43.5%	39.9~41.7%	★↑

【80%以上☆☆☆ 70%以上から80%未満☆☆ 70%未満★】

島の宝

満1歳おめでとう

勝山 浩太郎さん
保護者・勝山 浩平さん (名音)



海との関わりの深い勝山家だが「海の似合う男になってほしい」とお父さんの浩平さんは願う。強くて優しいウミンチュになれよ

こせきの窓

人口 1,770人 (△20)
男 836人 (△11)
女 934人 (△9)
世帯 905戸 (+6)

1月1日現在
(前年同月比)

ご結婚おめでとう

森 亮さん (湯湾釜)
保井 なぎささん (宇検村)

お悔やみ申し上げます

赤井 常吉様 (82歳)
武下 熊次郎様 (82歳)
加島 セキ様 (84歳)

香典返し (社会福祉協議会へ)

森 満彦様 (故森 清香)
武下 敏行様 (故武下 熊次郎)
加島 正男様 (故加島 セキ)
盛岡 前武二様 (故盛岡 シゲ)
池田 初治様 (故池田 タズ)
ふるさと納税ありがとうございます

広報誌謝礼ありがとうございます

里見海運株式会社様 (奄美市)
関 幸蔵様 (鹿児島市)

今月のいきむん



シロハラ

秋頃になると奄美に渡来する冬鳥。道路脇や農耕地などでよく見かける野鳥です。「キョキョキョキョ」と鳴きながら飛んで逃げて行くことと、尾羽の左右の端が白く目立つのが特徴です。

いきむん マンデー vol.02

奄美野生生物保護センターからのお願い

奄美野生生物保護センターには、毎年多くのアマミノクロウサギの死体情報が寄せられ、その数は年々増加しています。解剖などの結果から交通事故や犬・ねこによる被害が主な原因だとわかりました。

また、原因不明とされているものの半数以上も交通事故によって死んだ可能性があります。

☆夜間の林道は20km以下で

運転するよう心がけましょう。

☆犬やねこは適正に飼育しましょう。

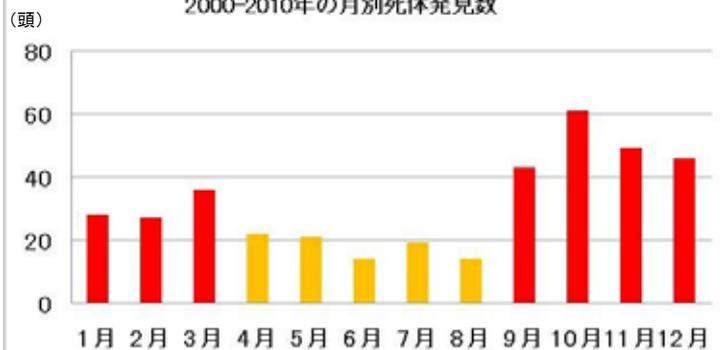


※ケガをしていたり、死んでいるアマミノクロウサギを発見したらご連絡をお願いいたします。

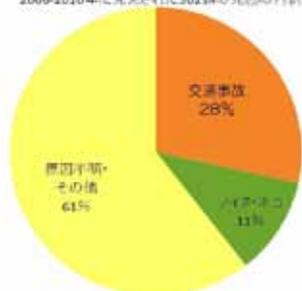
《奄美野生生物保護センター

電話番号 0997-5518620》

2000-2010年の月別死体発見数



2006-2010年に発見された302頭の死体の内訳



ご協力よろしく
お願いします!



読者の声

前略「広報やまもと」の災害特別号を送付いただきありがとうございました。またわすかばかりの義援金にもかかわらず名前まで掲載下さりお恥ずかしい限りです。私事で恐縮ですが私の住んでいる〇〇町も平成十六年九月に豪雨災害に見舞われました。そのときに全国から励ましの言葉や義援金、支援物資をいただきましたことから、そのお返しにその後災害にあわれた地域にはわすかです。義援金を送ることにしています。末筆になりますが、貴村の災害からの復興を心よりお祈り申し上げます。

三重県YKさん

「広報やまもと」災害特別号とお礼状いただきました。復旧に懸命のご努力が、多忙の中、心ばかりの寄付をさせていただきましたのにお心遣い恐縮に存じます。皆様方のご健康、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

神奈川県TMさん

この度は広報誌をお送りいただきましてありがとうございます。立派で美しい冊子で素晴らしいなと思いました。又、掲載されている文章も災害の様子や皆様の取り組みがよくわかり秀逸だと思いました。私一人と呼んでいるのは惜しい気持ちになりました。そして近所の図書館に掲示していただきたいかお願いしたところ了承していただきました。〇〇市立図書館といえます。すいぶんさせていただきますことだときがとめましたがお許し下さい。

愛知県TMさん

「村のしゃべり場」

報道ではわからなかった奄美豪雨が文章と写真でもっと詳細にわかりました。特に大和ダムと途切れなかった通信手段、そして結いの心が人的被害を減らすに済んだ大きな要因だったと思いました。復興するまでにはまだ時間と努力がかかると思いますが体に気を付けて頑張ってください。

栃木県HSさん

わすかばかりの寄付をしたぐらいで豪華な広報誌を送らなくて結構です。補助金や義援金でお金が残っているのではと疑ってしまいます。その分を被災者の復興に役立ててほしいし、そんな暇があれば被災者のおうちの掃除をする方がまします。

匿名

お便りをお待ちしています。

村政への要望や広報誌への意見。今後特集してほしい記事などを募集します。紙面にてご紹介しますので、住所・氏名をご記入のうえ裏面住所（アドレス）まで郵送またはメール、ファックスにてお送り下さい。



野山の
第五回

清楚な白い花・スモモ

2月に入りアラルが降るなど寒さが厳しい奄美大島だが、村内の畑ではスモモの白い花がほころび始めた。

スモモは中国原産のバラ科の落葉高木。奄美大島で広く栽培されている種類は「花螺李（ガラリ）」と呼ばれる台湾原産の品種で、本州で栽培されているスモモ（プラム）と比べると小ぶりで赤みの強い実をつける。

大和村でのスモモの栽培は、昭和25年農業改良技師の仁添隆三さん（津名久・故人）によって、奄美市名瀬里集落から150本の苗木を導入したのが最初だと伝えられている。

現在でも、大和村と奄美市名瀬地区において島内生産量の9割を占める主要産地だ。平地の少ない本村にあって、栽培農家160戸、栽培面積49ヘクタール、生産量150トンと村の中心作物に成長し、タンカンと共に「果樹の村作り」の一翼を担う。

収益性を高めるためには生産量の拡大はもとより、高単価な大玉果実の生産が必須で、大玉系統樹木の育成や摘果作業の徹底により農家の所得向上に努めている。

近年、成分検査により抗酸化物質であるポリフェノールの一種のアントシアニンの含有量が多いことが解明され、視力向上や血液を浄化する作用等から健康保健食品としても注目されている。

皮付きのままガブリとかじる生食が一般的だが、ジュースやゼリー、ジャムなどの加工食も多数開発され、スモモの可能性は広がりつつある。



大和村生活研究グループ（泉美保子代表）が発売した「スモモのドライフルーツ」は昨年新聞で取り上げられ大ヒットした商品の一つだ。

ゆつくりと煮込んで、ひとつひとつ丁寧に天日干した生干しのスモモは、素朴ながら濃厚な味わいと芳醇な香りが特徴の大人気商品だ。

樹上で完熟し夏の日差しで甘味を増したスモモは太陽を食するようなもの。

収穫は5月下旬から6月中旬頃で、果実の注文はJAあまみ大和支所、ドライフルーツの注文は大和村産業振興課で受付ける。

また、花の見頃は2月いっぱいとのことなので、自然の恵みに思いをはせながら、花見を楽しむのもいいだろう。

■JAあまみ大和支所

Tel 0997-157-2211

■大和村役場産業振興課

Tel 0997-157-2153



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接 URL を入力してアクセスしてください。
(<http://www.vill.yamato.lg.jp/i/>)

発行・編集 大和村役場総務企画課

〒894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地
TEL 0997-57-2111 FAX 0997-57-2161
mail:info@vill.yamato.lg.jp
<http://www.vill.yamato.lg.jp>